

令和5年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	名称	第1回 精神障がい者等地域生活部会	参加者数	35人	会場	Zoomにて開催
	日時	令和5年6月27日(木) 14:00 ~ 15:15				
主テーマ	<p>1 あいさつ</p> <p>2 今年度活動計画について</p> <p>3 地域包括マネジメントの概要と院内での取り組み</p>					
主な意見など	<p>1 あいさつ</p> <p>2 R5年度部会活動計画 見える化を一本の柱にして上伊那のなかでの取り組みを考えていく。 介護分野など、障がい福祉だけでは解決できない部分を協力しあい解決するために互いの顔の見える関係づくりのため研修会を実施する。地域資源の検討・体験の場の確保については昨年度市町村を対象にヒアリングさせてもらった。今年度は相談支援事業所等にもヒアリングの対象を拡大して行う。ピアサポーターの共有について昨年は意見交換を行った。圏域としてどんな応援ができるのか、協力して欲しいことがあるか等を共有する。出前講座は辰野高校と高遠高校で計3回実施し、障がいのある方への理解をすすめていく。</p> <p><u>県の活動計画</u> 今年度の狙いは大きくわけて3点。一つ目は精神障がい者にも対応した「地域包括ケアシステム(にも包括)」の構築。二つ目は地域移行、地域定着体制の強化。三つ目は継続して事業に取り組む体制づくりのために各分野の取組み工夫の共有。 “地域移行部会”を3回、“精神障がい者地域生活支援連絡コーディネーター等連絡会議”を2回開催予定。</p> <p>3 地域包括マネジメントと院内での包括支援マネジメントについて、こころの医療センター駒ヶ根地域連携室による取組みの紹介 こころの医療センター駒ヶ根では、通院と入院どちらも対応した救急医療機関として早期介入を目指している。重層的支援の担い手として地域への情報提供や、入院アセスメントの活用を行っている。また、家族の継続的な支援も担っている。地域とのつながりを切らさぬように、入院時から先を見通した治療計画を多職種で共有し(カンファレンスシートを使用)、必要な地域支援について早期から検討している。</p> <p>包括的支援マネジメントの動向について事例を交えて説明する。 (入院後さまざまなプログラムへの参加を促し、退院に向けてスピード感を持って支援している事例) 引きこもりの生活が長く対人面で不安があり、支援に拒否的である方。院内関係者と少しずつ関わりを持ちながら、“地域の人に関わってもらう”ことを目標に退院に向けて取り組んでいる。</p> <p>入院はあくまで地域生活の一つの点であり長期入院が必要な方も居るが、早い段階でアセスメントを行い、早期退院を目指していく。より安心して継続した地域生活が送れるように、本人も含めて皆で作っていくことが包括ケア。 基本的には、高校生以上の方がシステムの対象になる。 地域の民生委員やボランティアとの関わりがあるかといったリアルな地域の動きが病院は分からず、保健師の協力が力になったことがあり、協力を仰ぎたい。</p>					
まとめ	<p>地域からも病院に問い合わせたり働きかけることで病院の取り組みを深く知ることができる。意見交換しながら顔の見える関係づくりを引き続きしていく。</p>					
次回	<p>(記録者)</p>					